

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和04年11月10日

計画の名称	古都鎌倉の水環境を守る下水道整備計画											
計画の期間	平成28年度 ~ 令和02年度 (5年間)										重点配分対象の該当	
交付対象	鎌倉市											
計画の目標	市街化区域の下水道整備はほぼ完了しているが、市域の約35%を占める市街化調整区域にも多くの市民が住み、観光名所・旧跡も数多く存在し、日頃から訪問客で賑わっている。こうした地域の下水道整備を充実させることによって、古都鎌倉に相応しい水環境の創出を図るとともに市街地における雨水整備の推進を図り、浸水被害の低減に努める。また、鎌倉処理区の下水道（汚水）事業を持続的に実施するために、地震津波対策と老朽化対策を併せた幹線管渠を再整備するための調査等の業務を実施する。											
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	522	A	522	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0 %

番号	定量的指標の定義及び算定式	計画の成果目標（定量的指標）		
		定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H28当初)	中間目標値 (H30末)	最終目標値 (H32末)
1	下水道処理人口普及率を97.1%（H28）から97.3%（H32）へ増加させる。 下水道処理人口普及率 処理区域内人口（人） / 行政区域内人口（人）	97%	97%	97%
2	下水道による都市浸水対策達成率を78.3%から（H28）から78.4%（H32）に増加させる。 下水道による都市浸水対策達成率 整備済区域面積（ha） / 対象区域面積（ha）	78%	78%	78%
3	再整備幹線管渠の約62.7%の調査及び基本設計を行う。 再整備幹線管渠の調査・基本設計の実施率 調査・基本設計延長（m） / 再整備幹線総延長（m）	0%	52%	63%
4	再整備幹線ポンプ場の基本設計を行う。 再整備幹線ポンプ場の基本設計の実施率 基本設計箇所数（箇所） / 再整備ポンプ場箇所数（箇所）	0%	0%	100%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---





事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
学識経験者等の第三者により構成された鎌倉市下水道事業運営審議会にて、評価指標の実現状況及び今後の方針について意見を求めた。	令和4年(2022年)7月
	公表の方法 鎌倉市ホームページにて公表
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<p>指標1：汚水管の整備により生活環境の改善、公衆衛生の向上、公共用水域の水質保全が図られた。</p> <p>指標2：雨水管の整備により、計画対象降雨による浸水被害の解消が図られた。</p> <p>指標3：測量と土質調査により、幹線管渠の基本設計等に必要な地質等基礎的データを収集することができた。</p> <p>指標4：新ポンプ場の位置が決まらず基本設計の実施に至らなかった。</p>
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況(必要に応じて記述)	
特記事項(今後の方針等)	
<p>汚水管渠枝線整備事業：他の整備地区の要望や整備に係る事業投資効果などを考慮し、整備時期を検討していく予定。</p> <p>大船排水区雨水管渠等整備事業：浸水対策が図れるよう継続して整備を実施していく。</p> <p>持続型下水道幹線再整備事業：地震・津波対策と老朽化対策を図るため、引続き再整備幹線等の整備に向け検討を行い、早期着手を目指す。</p>	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	下水道人口普及率	
	最終目標値	97%
	最終実績値	98%
2	下水道による都市浸水達成率	
	最終目標値	78%
	最終実績値	79%
3	再整備幹線管渠の調査・基本設計の実施率	
	最終目標値	63%
	最終実績値	23%
4	再整備幹線ポンプ場の基本設計実施率	
	最終目標値	100%
	最終実績値	0%

新ポンプ場の設置位置が決定できなかったため、幹線管渠の基本設計に着手できず目標を達成できなかった。

新ポンプ場の設置位置が決定できなかったため、基本設計に着手できず目標を達成できなかった。